

# 厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金：研究概要 厚岸に生息するアナジャコとアサリの関係

和田 哲（北海道大学大学院水産科学研究院）

## どんな研究なの？

厚岸湖や厚岸湾にすんでいるアナジャコの生態と、アナジャコとアサリを調べました。



アナジャコ。アサリ島や干潟で、巣穴を掘って暮らしています。

## なぜ調べる必要があるの？

厚岸のアサリはカキに並ぶとても大事な水産動物です。アナジャコはアサリと同じところにいるから、アサリの邪魔者かも？ だけど、じつはアナジャコも九州などでは釣り餌や食用に利用されています。

そこで、アナジャコをどうするか考えるために、アナジャコがどんな生物なのか、そしてアナジャコが多い場所と少ない場所でアサリの数や大きさを比べました。

## どんなことが分かったの？

アナジャコの巣穴は1平方メートルに平均40個もありました。ただし、巣穴はアサリのもぐる深さよりも深いところを通っていました。真龍の干潟では、巣穴がたくさんある場所のほうが、巣穴が少ない場所よりも大きなアサリが多いという傾向もありました。けれども、アサリ島では、そういう傾向はなかったので、アナジャコの巣穴が多いほうがよいと、簡単に考えるわけにはいきません。巣穴の数とアサリ数の関係は、はっきりしませんでした。巣穴が多いほどアサリ数が少ないという弱い傾向があるようでした。

意外なことに、アナジャコは大きくなると自分で新しく巣穴を掘ることができなくなるようでした。そのため、一度自分の巣穴から掘り出されてしまったアナジャコは、他のアナジャコの巣穴におじゃますることができなければ、カモメなどに食べられてしまうようです。

また、本州や九州のアナジャコに比べて、厚岸のアナジャコは少し大きいようです。本州や九州では、メスはおもに冬に卵を産みますが厚岸では夏に卵を抱いているメスがたくさんいました。夏に涼しい厚岸では、アナジャコは夏でも元気なのかもしれません。もちろん、冬が寒すぎるのかもしれませんが。

## まだ調べる必要はありそう？

私たちは今年初めてアナジャコを調べて、アナジャコの魅力やアサリとの関係がだんだん分かってきました。けどまだまだ調べきれいなこともたくさんあります。これからも研究を続けたいですね。